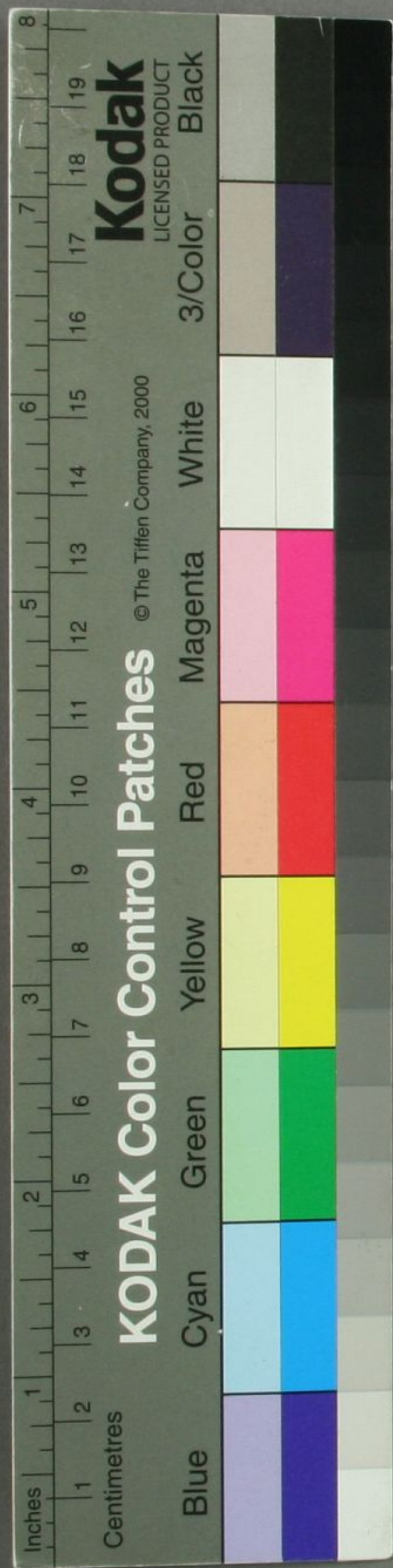




中村俊定文庫
文庫 18
838



枳椇



麻布



やりくの向もろくは離の柳 尚應
 土器は落首とや花ふた 光運
 那の字を筆で離の描いふ 三好
 もちつと不二の旗ありとあれ 、
 四十とどろく世帯や猿也 松佳
 砂よりうへとふふや雀 味舎

梅さや梅さ 、 艾うみ 、 春友
 管やら新落き 、 竹の雪 、 宇進
 花雪さつとく人け出 、
 上下のあつてもふぬ 、 保野女
 おさけや新の落 、 信長 、 無敵
 水おとふ 、 山丸
 清さ 、 伊丸
 まま 、 みる

唐崎て今年の冬やあゝ
 うふふふも梅はあけの春
 木撰もせてあつたあつた
 うの春はあつたあつた
 年がたあつたあつた
 うの春はあつたあつた
 おぼろけもあつたあつた
 葉のあつたあつたあつた

田所 玉啓
 小石川 和琴
 強原 以國
 米沢町 晴河
 水戸 一志
 文木 玄翠

我をもてきりふあはれは
 遠りれとさくくるあはれ
 買てくはれは
 青海草をきりて干や海士うき
 咲花をきりていふは
 花のうき
 入るうき
 白林

花を付くるは像いあうり理、
 かるに下りてそと通るる市の新、
 さうさうて度とらちの雲さうれ、
 日さうや楼の中は白法さうき、
 答はさうさうさうてさうき外、
 おろさうある花さうさうさうさう、
 教さうさうさうさうさうさう、
 塙うけの池は蛙に啼さうき、
 雲二

四谷

山一

神田

田島

浅草

いさ女

妻水

答はさうさうさうさうさう、
 味さうさうさうさうさうさう、
 花さうさう樹さうさうさうさう、
 持合さう山吹さうさうさうさう、
 其さうさうさうさうさうさう、
 出さうさうさうさうさうさう、
 咲てさうさうさうさうさうさう、
 流さうさうと枯さうさうさうさう、
 雲二

去住柳

一鰯

駿河所

如松

峰水

栄枝

本所所

佛瓢

嵐軍

文水

新甫

小石川 白菴
 花風や浪をよ家のつらうを
 玉川のふさをききや好むら
 花めきむ人笑ひせし海一り
 夕月の花をくふふかりき架
 揺る事て居てさく花の白
 おるきれし日さき野梅春
 長谷川所 峰丸
 長谷川 芝蔴
 小石川 大水

梅披
 花もさやまとあうり花の花
 人ころ水よりうや善れ花
 高いもあきひそまよ花の山
 志うて花あて毎日花えう花
 花をく海あ花をき花は雨
 陽や花うこれのまの丈
 花子のほりしや花松ふ花
 下総佐原 山曉

氣の長き人々もさう木の芽摘
 日の長いとき咲きのうき花を
 扇もさるゝ旬のや梅の花
 落椿の川に流るゝ花
 鬼燈の門はさきへ花の子
 又て梅のうけもさるゝ花の市
 又のう一日も花をさるゝ花
 此やうにさるゝさうて人もさるゝ

油所

巢箱

桑窠

京

旗玉

大川場

如鉢

聖徳太子

梅麿

ふさ女

築地

米穀

巨洲合

吉園

あらゝは知。人々も花の中
 宵あらゝ眠きとき花のうき
 ちるゝとさるゝ花をさるゝ花
 織屋のさるゝ花をさるゝ花
 衣猫のさるゝ花をさるゝ花
 梅のさるゝ花をさるゝ花
 花をさるゝ花をさるゝ花
 とさるゝ花をさるゝ花

吉原

蓮窓

花月

松露

飯田

さるゝ

村松

虎窓

丸内

渭水

東仙

鳥茅田も賑うにある。性うぬ
 終る啼て野末の川に濁りて
 約るる老の耳もすくもり
 吟るる約るる名をきくけり
 雪をすくくと歩けり
 七種や接のうちて事能はる
 石接もかける約るる生餌るま
 元のすくもるも自よりめれり
 三是
 新月
 竹枝
 松丸
 古酒
 酒角

下総松戸

降雪やまのやうもあつれり
 おくてもあつる時をぬき
 門松もちきうて慶斗のありけり
 うら道越る人いあつるま
 罪のあき顔接ひり土むるま
 海は深田もむるやまのま
 山突てちるも花の木に根を
 まるやふもせけり放牛
 龜遊
 芝山
 文隆
 李一
 素風
 百初

下総

下総府

宇都宮

心あけのふりそるや 任み 栗二
 等采ふらん 人あきさる 心さ女
 等れ来る なきや 数年貢 樗月
 涙水のきりゆく すすか 素桂
 およそ 波もくさる 春能海 机文
 花あきらきき 歩り 柳うけ 石白
 心押ふ来る や 波干のきき 采来
 ちる花さうりて 痛のきき 李且

下後根本

下後根本

海草

柳石裂

言合所

言合所

ころそりと人あきさる 花見 豆あ中本
 花咲や 序あうり 花咲 差田
 手都合はよきや 花きき 咲南
 可越

豆あ中本

差田

二條

下後根本

可越
 移るあめなきて 等きき 雲江
 極ふさく用うき 花きき 杏園

下後根本

杏園

碩雄

咲南

花咲

差田

豆あ中本



〇
 嘗やまゝ出てゐる旅のや
 かゝ餌を捜す鳥も妻も
 永きや世の烈き土置師
 夏を待つやとてまゝ
 解あらはるやとて池を
 是れをこそ丹津や猿也

一俵
 一琴
 柳坡
 畦坡
 粟二
 小女

妻風やと居てさへ磯とて
 梅さゝやふゝ即ち春も
 質半抱の長きとてや
 昔をたふさるゝや
 魚鮒は海をぬるや
 草小蛙踏すといふ
 虫鳴さるや机の向
 若倒しのふく解さる

玉砂
 井田
 荻素
 本
 下松
 一入
 松戸
 樂道
 村松
 巢之
 牛込
 子皓

小石川 里廟
 馬さくし車さくぬやまきさく
 巢のさく常耀さくや塔のと
 さくらも廉の位やさく南
 まさくさく流のさくさくもさくあり
 うさくさく袂さくさくさく那
 小石川 里廟
 白岩
 浄学 浄学
 下縁根が 素友
 二合ま 溪雪
 素頂

文章

斗圓
 松巢
 四明
 我我
 冷水
 何曉
 良號
 以文
 心さくさく入さくさく里さくさく
 子松根さくさく流さくさくさく西
 さくさく流さくさく流さくさくさく子
 清後さくさく付ておさぬ那梅さくさく
 常さくさくさくさくさくさくさくさく
 機さくさくさくさくさくさくさくさく
 我さくさくさくさくさくさくさくさく
 心さくさくさくさくさくさくさくさく

延年	其葉就老も蘇もほく入れ
吾廂	小一日にもきうけよむえの翁
晩霞	吹出そ玉や城のうへぬくろ
巢許	何しろんよ出ても柳うきお森
文廣	人のりや静まられて宵れ月
家逸	結られておて囀ふや山の梅
呂峰	あうう移る土も紅やこく
野水	清きまほきて滑りう露の空

東洋	石投て見そごへあうけ夫の厠
野巢	揚るて羽子ねをさする柳森
涼谷	もの賣れき長閑ある二日の那
かき	摘まもこねる色やそこれ料
むき	枝をみーて黄もれ啼まろり
玉光	ふあ〜と鳴る蝶のおき森
波	おほれ冥ハ初あ〜き〜

法楽ニ入る人多し市此能

一軒

今より七年前より此所

ハ巢

天保四癸巳亥

